

交通アンケート調査にみる徳島都市圏の通勤交通の実態について

徳島県土木部住宅課
徳島市開発部計画課
中央復建コンサルタンツ
エコー建設コンサルタント

○森 文美
松本 禎之
正員 斎藤卓二
榎 義嗣

1 はじめに

道路交通混雑を始めとする都市交通問題は、近年さらに複雑・多様化する傾向にあるが、こうした道路交通に関する諸問題は、大量の交通が集中する通勤時において顕在化するケースが多く、通勤交通への対応が都市交通計画策定の上で大きな課題の一つとなっている。

徳島広域都市圏パーソントリップ調査（調査圏域は徳島市他2市10町、以降徳島都市圏と呼ぶ）においては昭和58年度に交通実態調査と同時に「通勤交通」「都市施設の利用」「身近な交通に関する問題認識」の大きくは3つの内容に関する交通アンケート調査を実施した。本稿は、通勤交通に関する前記の認識を踏まえて、交通アンケート調査にみる徳島都市圏の通勤交通の実態をとりまとめたものである。

2 通勤交通に関するアンケート調査結果

①通勤手段の変化

5年前から現在にかけての通勤手段の変化は図1に示すとおりであり、自動車・オートバイの構成比が増加し、マストラの構成比が減少している。このような通勤手段の変化のうちマストラから自動車への変化に着目して、居住地別の転換率を示したものが図2である。マストラから自動車への転換率は概ね都市圏の周辺部（那賀川町、上板町、板野町等）において高くなっている。

②通勤時間及び通勤費用

図3及び図4は居住地別の通勤時間と通勤費用（1か月当り）を、図5は通勤時間と通勤費用の関係を示したものである。

居住地別の通勤時間と通勤費用とには、ほぼ比例関係が成立するが通勤手段によって通勤費用が異なることから藍住町・上板町では自動車利用率の高さから通勤時間に比べて通勤費用が高く、また逆に川島町においてはマストラ（特に鉄道）利用率の高さから、通勤時間に比べて通勤費用が小さいといった特徴がみられる。

	サンプル数	通勤手段別割合 (%)									
		徒歩	自転車	オートバイ	自動車	バス	タクシー	その他	不明	合計	5年前
現在	6,739	1.4	14.4	16.3	47.1	1.4	0.1	0.1	0.1	23.5	23.5
5年前	6,739	3.1	15.5	14.8	44.9	1.4	0.1	0.1	0.1	20.0	20.0

図1 通勤手段の変化（現在、5年前）

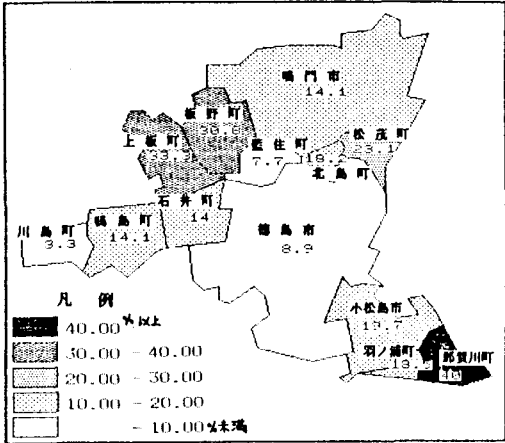


図2 マストラから自動車への転換率

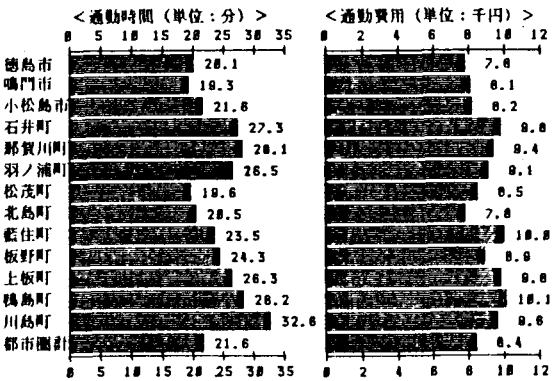


図3 居住地別平均通勤時間 図4 居住地別平均通勤費用

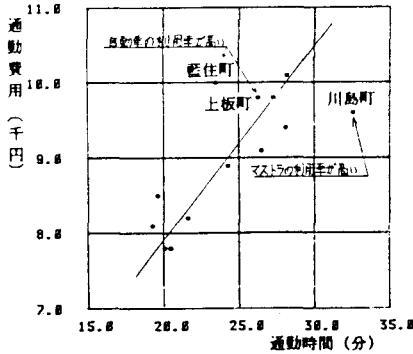


図5 居住地別平均通勤時間と通勤費用の関係

③通勤時間の感じ方

図6は通勤時間帯別通勤時間の感じ方を示したものである。通勤時間に対する不満度（「かなり長い」「やや長い」と答えた人の合計）は、通勤時間の増加に伴って高くなる傾向がみられ、特に通勤時間が40分を超えると不満度が急激に高くなっている。

④通勤時交通混雑に対する対応策の考え方

図7は、交通混雑に対する通勤手段別対応策の考え方を示したものである。自動車利用者は「時差出勤の実施」に対する回答率が46%と高く、逆に自動車の規制に関する対応策に対する回答率が低い。これに対して、他の手段の利用者は自動車規制に関する対応策への回答率が高いといった傾向があり、対応策の考え方は通勤手段により大きく異なっている。

⑤自動車から他の手段への転換に対する考え方

図8は、自動車利用者の他の手段への転換についての考え方を通勤時間帯別に示したものである。全体では、約40%の人が自動車から他の手段への転換が考えられると答えており、通勤時間帯別には、30分未満では徒歩・二輪、30分以上ではマストラを主体とした転換が考えられるとしている。

次に、このような通勤手段転換（特にマストラへの転換）に当たっての条件を示したものが図9である。バス、鉄道ともに「運行回数の増加」を望む回答が最も多くなっている他、バスでは「運行経路の改善」「運行速度の向上」、鉄道では「道路混雑により鉄道を利用したい」「駅への駐車場を整備」を条件とする回答が多くなっている。

3 おわりに

本稿では、交通アンケート調査結果からみた通勤交通の実態の概要を紹介したものである。今後はこのような調査結果を時差出勤、相乗り、マストラ利用への誘導等、主として交通運営計画を検討していく際の有効な情報として活用していく必要があると考えている。

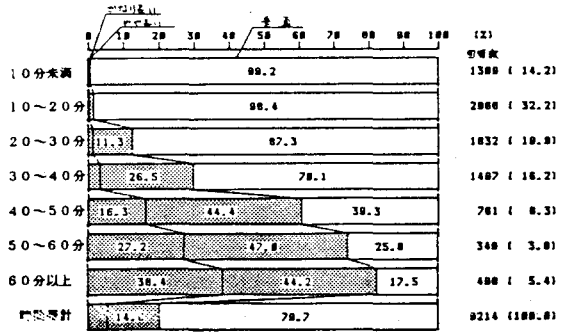


図6 通勤時間帯別通勤時間の感じ方

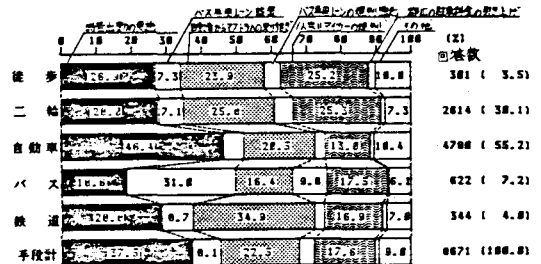


図7 通勤手段別対応策の考え方

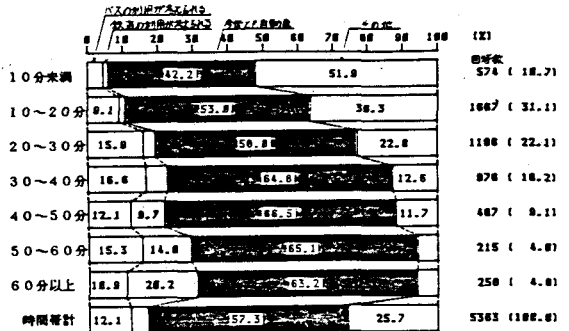
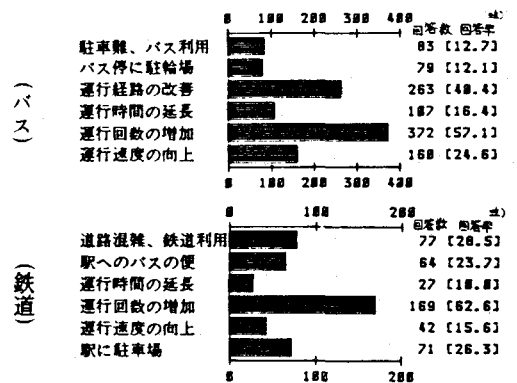


図8 通勤時間帯別転換に対する考え方



注) 複数回答項目のため回答率の合計は100%を超える場合がある。

図9 転換に際しての条件（バス、鉄道）